

会 議 録

1 会議名	第4回南砺市男女共同参画推進審議会
2 議題(公開)	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 付議事項 南砺市男女共同参画推進プラン(第2次)の内容について ・南砺市らしさの具体的な表現方法について ・成果指標の検討 4. 副会長挨拶 5. 閉会
3 開催日時	令和4年10月18日(火) 開会時間:午後7時/閉会時間:午後9時10分
4 開催場所	南砺市役所 本館4階 401会議室
5 会議出席者	[委員:出席8名/全14名] ※50音順 大坪 久美子、河合 香織、近藤 隆志、佐竹 弘昭、谷口 恵、 橋爪 央樹、水口 幹夫、渡邊 美和子 [委員:欠席6名] 安達 望、岩井 透、浦井 啓子、藤井 篤子、水木 宏一、山本 紀子 [市:出席2名] 事務局 南砺で暮らしません課 女性活躍・婚活支援係 係長 高堂 清美 " " 主事 堀井 玲紀
6 傍聴者	0名
7 会議記録 (1)開会	午後7時00分
(2)会長あいさつ	第3回までは(市の男女共同参画について思うことを)本音で語ってきた。今回からはいよいよ、これまでの意見をどういう形でプラン(第2次)に組み込んでいくかという議論に入る。具体的な表現を考える、大変難しい協議になると思う。成果指標についてもどんな指標があるか、委員の皆さんに色々ご意見をいただきたい。 これまで3回にわたり、市の男女共同参画に関する核心について議論出来た。今年度はプラン(第2次)の改定ではなく、見直しということで、大きな変更には至らないとは思っている。しかしながら、この3回で出た委員の意見や、プラン(第2次)の策定から5年間で情勢が変わってきたこと、また今後どの様に情勢が変化していくかわからない中ではあるものの、5年後に向けて南砺市が男女共同参画推進という視点からどういう方向に変わっていかねばいけないかということは、見直しの前文として出てくるのだろうと思っている。ここについても皆さんに今後ご意見をいただきたい。その前文の中には、

	<p>私たち委員が関心を持った内容や、今後の思い、決意表明、見直しの中でこの審議会が感じた課題をまとめていきたいと思っている。</p> <p>今回は南砺市らしさをどういう風に表現するか議論していくが、委員の皆さんにどんなことでも意見を出していただき、何らかの、凝縮した形で残していきたい。</p>
<p>(3)付議事項</p>	<p>南砺市男女共同参画推進プラン(第2次)の内容について 南砺市らしさとはの具体的な表現方法に関し、委員からの発言は下記の通り。 ※主にプラン(第2次)P30、31について協議</p> <p>渡邊会長： 南砺市らしさという言葉について、これまでの議論の中ではマイナスなイメージが多く出てきた。これを逆手にとり、どういった表現がいいだろうか。</p> <p>A委員： 南砺市らしさという言葉は使わず、南砺市が必要とする等といった表現にしていくのはどうかという議論が前回もあったと思う。男女共同参画の目標として、南砺市らしさは必要なのだろうか。南砺市が必要とする、南砺市が目指すといった表現の方がいいと思う。らしさというとプラスもマイナスも含まれる。</p> <p>B委員： 5年前にこのプランを策定した時には、南砺市の独自性を大切にしたいという意識があったのだろう。市ができて、市の良さとして特色を出そうという意気込みがあったのだろう。具体的なことをイメージしたのではなく、南砺市の特徴となるような形としたいという思いだったのだと思う。そこは否定できない。 ただし、男女共同参画を推進する上で、今おっしゃったように、南砺市らしさが必要かどうかという、どうなのだろうか。南砺市らしさから受けるイメージが、昔の固定観念を引きずっており、引き離せないと感じる。</p> <p>C委員： 南砺市らしさを男女共同参画と絡めようとしたときにどう絡むのだろうか。悪いところは当然絡んできているように見えるが、良さをどう絡めるのか見えづらい。</p> <p>A委員： 例えば(プラン(第2次)P30(2)枠内に記載があるが、)富山県のプラン(第3次)の目標の部分を見ると「本県の利点を活かしつつ」という表現になっている。らしさというとマイナスイメージもあるので、こういった表現の方がいいのではないか。</p> <p>B委員： プラン(第2次)P31 をみると「(3)南砺市らしさを共感できる男女共同参画社会」とあり、この中に本プランで位置づける南砺市らしさとして3つ挙げられている。3つのうち2つ、「本市の良さを誇り、活躍できる人材を計画推進に活かす」や「こうした環境が整</p>

っていること(強み)を計画に活かす」といった部分は、男女共同参画に関係ないと感じる。しかしながら「男女共同参画社会の推進エンジンを強化する」という部分に関しては、むしろ立ち遅れている部分をもっとやっていかなければいけないと捉えられる。そう考えると、南砺市らしさを逆手にとって、南砺市の古くからの固定観念や風習に基づいた男女格差を克服、乗り越え、といった内容を全面に持っていく表現にはどうか。

見直しの前文にはしっかりと、立ち遅れの原因になっているところをまとめ、今後5年間でみんなで固定観念を克服していきましょうという表現にしたらいいと思った。

D委員:

このプラン(第2次)の策定時は、南砺市において、小規模多機能自治が始まっていなかった時期であり、その後小規模多機能自治が始まった。31地域の地域づくり協議会で地域課題を克服していく中で、31地域に男女共同参画推進員が配置され、男女共同参画社会について地域で取り組んでいこうという体制になってきていると思う。しかし、男女共同参画社会に地域で取り組んでいこうという意識がない現状もある。策定時は小規模多機能自治がなかっただろうが、この見直しでは小規模多機能自治の形が整ったことをプラスに捉え、男女共同参画社会も含め、住民が自治意識を強くもって、自分たちで自分たちの地域を創り上げていくんだという意識をプラン(第2次)に書き込んだらいいのではないかと思う。

B委員:

小規模多機能自治の話でいうと、例えば会長・副会長の女性比率等をみても、現状として地域づくり協議会の中で男女共同参画意識ができていないところもある。そういう意味で、次の議題でもある成果指標にもつなげていけると思う。

C委員:

私も地域づくり協議会の役員をしているが、男女共同参画という言葉は実際どこにもでてきていない。この言葉自体、行き渡っていないと感じる。

役員にも女性の方が一人もいない。地域によって違うだろうが、地域にとって必要な部会をつくって進めている。

A委員:

私も地域づくり協議会の役を担っているが、私の地域では生涯学習部会の中に男女共同参画推進をおき、議論もしている。女性役員も増えてきている。

しかしながら、小規模多機能自治が始まったからよくなってきたというイメージをもってはいけない。小規模多機能自治は一つの手法ではあるが、男女共同参画推進と結びつけるのはどうかと思う。小規模多機能自治がなくても、男女共同参画推進は必要なことであり、少しはやりやすくなるだろうが、小規模多機能自治の中で何か変わるとは考えにくい。

南砺市らしさについては、利点を活かす、必要とするといった表現に変え、先ほどお話しがあった「男女共同参画社会の推進エンジンを強化する」といった必要な表現も

残しておくべきだと思う。

B委員：

今回はプラン(第2次)の改定ではなく見直しのため、全ての表現を抜くのではなく、表現方法を変えていく事になると思う。掲げるものをどう掲げるか、そして成果指標にどう落とし込んでいくか。

今ほどA委員がおっしゃったように、小規模多機能自治となったから男女共同参画を推進するというだけでは全くなく、ただ、小規模多機能自治が始まったからその中に推進の目標や成果指標をしっかりと入れ込めば、推進する切り口にはなるかなと思う。どういう成果に持っていくのか、やらなければならないような指標に落とし込んでいくことが必要。もちろん小規模多機能自治だけが手法ではないが、5年前と変わった点でいうと、小規模多機能自治はいい切り口になると思う。

渡邊会長：

具体的に、「南砺市らしさを共感できる男女共同参画社会」という言葉をどう言い換えていくべきだろうか。

E委員：

「南砺市らしさ」は、「南砺市はこうあるべきだ」という凝り固まった観念のようにみえてしまう。昔から歴史・文化があり、旧町村それぞれに独特な雰囲気のある市であると思っている。男女問わず誰もが自分らしく生きられるのが男女共同参画の目標だと思う。南砺市らしくではなく、誰もが自分らしく、あなたらしく生きていく事ができるということが男女共同参画である。南砺市民が幸せに暮らせるまち＝南砺市らしさにつながれないか。

女性活躍・男女共同参画は地域や団体で差があると思う。私が所属している団体では、女性同士のネットワークをつくり、女性が声をあげてどんどん役職についていけるように、女性会員だけを集めた会を10年前に作ったが、この10年間で、女性活躍を謳わなくても女性が役員にどんどん就いている環境になってきたため、今年解散することとなった。

男女共同参画は誰もが自分らしく生きるために必要な学びであると思う。市民がプラン(第2次)を手にとったときに自分事になるような、くだいたキーワードがあるといいと思う。

F委員：

2章の1(プラン(第2次)P30)は南砺市が目指す男女共同参画社会について書こうとしている部分であり、(1)、(2)で大きく社会を捉え、国・県の取組を記載していて、(3)で南砺市のことを書き始めており、(4)で南砺市が目指す将来像を書こうとしている。では(3)で何を書くべきかという、先ほどB委員もおっしゃったように、弱みも含めて南砺市の今の立ち位置を書くべき。ここはもっと伸ばし、一人一人が自分らしく生きていける社会にしていこう等、南砺市の現在の立ち位置を共有する箇所なのかなと思う。

(3)では困りごとと強みに変え、すごく前向きではあるが、いいところしか書いてない。実際は困るようなことであっても表にせず、いいこととして書いてある。結いや土徳、合力というのも男女対等ならいいことで、協力することはいいことだが、役割が性別で偏っていると良くない。

1章(P5～)では、県内平均と南砺市とを比べており、例えば P9 の審議会の女性登用率等、元々低かったところを南砺市は追いつけているという面もある。しかしながら、意識の部分では従来型が根強い等、そういうところを目に見える形にして(プランに組み込むのはどうか。)

B委員:

P30 のプランの基本的な考え方の(4)にはきちんと、「これまでの、ともすれば、男性中心で運営されがちな家庭、地域、職場の環境等において、積極的に女性の参画を促し、男女が共に活躍できる社会づくりが望まれます」とかいてある。今はそういう状況だということが書いてあり、(3)は綺麗に書きすぎている。

G委員:

(3)に「本市の特徴(「強み」を活かす)」とあるが、この(「強み」を活かす)を無くし、本市の特徴と止めておくのもいいのではないか。

C委員:

特徴というよりも現状であり、ここに弱みがある。

G委員:

「強み」と書いてあるから余計に引っかかる。

B委員:

南砺市らしさということが男女共同参画を推進していくことに役に立つ、いいことだということが、これまでの議論の中で何一つ出ていない。男女共同参画の観点からみると全く強みではない。

G委員:

南砺市らしさの問題点とか。らしさを使うのであれば、どういったところが問題点かを組み込んだ方がいいのでは。

B委員:

独自性を含めたい気持ちは理解できるが、ここで南砺市らしさは使わない方向でいきたい。

南砺市らしさを共感できるというのはとても抽象的。南砺市の男女共同参画の現状、課題といった言い方でいいのではないか。本文も、「特徴を踏まえ」→「現状を踏まえ」に変えられるだろう。

表も見直し、必要があれば、以前とった若者・子育て世代向けアンケートの結果を引

用して克服しなければならない課題をここに書き込んでいくと、(4)につながる。
当審議会としては、この部分の捉え方が5年間で変わってきたため、厳しく現状を
みつけ、文言を直したとするとつながると思う。
現状の部分では、第1回審議会の須河氏のお話しにもあったが、男女共同参画の面
では、全国的に見て富山県、その中でも南砺市が進んでいない現状にあるということ
を、データも含めて記載し、若者・子育て世代向けアンケートの中でもこういったところ
が課題だということを入れていく。そして、むしろ男女共同参画がしっかり進んでいて、
男女共同参画推進審議会の必要がなくなり、解散するような社会をつくって、それを
南砺市らしさと言いたい、といった決意表明のようなものを盛り込み、プラン(第2次)
に落とし込んでいくのはどうか。

F委員:

プラン(第2次)P4にも南砺市らしさ=本市の特徴という部分がある。

B委員:

ここも、本市の特徴だけでいいのではないか。

F委員:

ここに弱みとあるが、男女共同参画の面からみた弱みを入れるべきではないか。
その場合、出典の部分については、出典ではなく、参考という書き方にしておけば、審
議会の見直し内容も入れ込めると思う。

B委員:

四角で囲んである部分は、全て残してもいいし、文章を言い換えて出展をやめること
もできる。もしくは引用しながら、男女共同参画の現状から見た強み・弱みを書く方法
もあるが、そこまで細かく記載する必要はないだろう。

渡邊会長:

では、「南砺市らしさ」という言葉は原則使わず、「南砺市の現状」といった言い方に
変えるということで進めたい。
これは最終決定ではなく、どういう風に変えるかはまた議論することとして、こういった
方向で進めていきたい。

次に、成果指標の検討について、委員からの発言は以下の通り。

※令和4年5月10日に開催した前委員による第3回審議会の際に提示した資料1:男女共同
参画プラン(第2次)成果目標指標 を参考に協議。(6月1日~の新委員には別途配布済)

A委員:

資料の P1:基本目標1(1)①男女共同参画意識の形成についての成果指標「男女
共同参画の考え方を知っており、関心もあると回答した数(市民意識調査回答)」に

ついて、R4 年度から「あなたは南砺市がジェンダーギャップの解消に取り組んでいると思いますか」という項目に変わるようだが、R8 年度に向けて具体的な目標が必要では。この内容で目標30%では不十分だろう。50%くらいでどうか。

B委員:

達成できるかどうかは別として、50%くらいは目標として持ってもらわないと。80%くらいでもいい気持ちである。

C委員:

ちなみに、市民意識調査の年齢層は無作為で、市民全員が対象か。

事務局:

年代はバラバラで、(18歳以上の)市民全員が対象である。

C委員:

ジェンダーギャップという言葉は、中学生はわかるだろうが、高齢者は知らないだろう。

A委員:

続けて、P1 基本目標1(2)男女共同参画に関する教育・学習の推進の部分に関し、指標が全くない。これをどうしていくか。例えば②地域の学習機会充実に関し、(男女共同参画に関する)研修や講座を開催して何人参加したかということも一つの指標になるだろう。

B委員:

成果指標は、数値目標として、結果を数値化する必要があるため、図り方が難しい。成果指標については、各部署で、推進させるためにどういった数値が必要でどう追っていくかを真剣に考えていただく必要がある。

その中でも、今言っていた②地域の学習機会充実(地域における学習機会の提供と体制づくり)は、具体化しようと思えばできる部分。

A委員:

地域づくり協議会で機会を設ければできることだろう。

D委員:

市の出前講座で、男女共同参画に関するものはあるのか。

事務局:

今年度のメニューにはないが、地域づくり協議会から依頼があり、当課の課長が講義した例はある。

B委員：

例えばプラン(第2次)見直しの趣旨説明、普及に向け、今後審議会委員が地域に話に行くこともあっていいのではないか。

推進員にも今回の見直しの核心についてしっかり伝えたい。

H委員：

プラン(第2次)の見直しが完了した際には、推進員向けに講習会を開催したい。

F委員：

(それぞれの施策に関し、)推進していく主体が書いてあるケースも多い。これは福祉の担当、これは地域づくり協議会、これは推進員等。自分ができる部分が具体的にわかるような記載が必要ではないか。

事務局：

確かに他市では担当課や推進主体を記載している例もあるが、南砺市は機構改革も多いため、記載しづらいという事情があるようだ。

B委員：

例えばプランに組み込めなかったとしても、年度当初の計画などで入っているといい。プランの進捗状況も含め、推進主体を記載したものを、毎年必要などころには配布できるようにした方がいいのではないか。

本来、進捗状況等を審議していくのが審議会だから、審議会委員自身が見て、進捗がわかりやすい指標にしておく必要がある。

～～～

渡邊会長：

P2(1)配偶者等からの暴力の防止の成果指標「民生委員児童委員、男女共同参画推進員等を対象としたDV防止講座の年間実施回数」について、以前からも議論があっただろうが、いかがでしょうか。

F委員：

民生委員児童委員、男女共同参画推進員等を対象とした講座は、参加人数を指標とした方がいいだろう。または、推進員らが市民向けの講座を開くという目標にしたらどうか。

B委員：

その方が、開催しないよりもはるかにいいだろう。

A委員：

民生委員児童委員、男女共同参画推進員だけが受講してそれで終わってはいは、

(地域への)浸透は期待できない。どれだけ地域で実行したかの方が指標として相応しいだろう。

B委員:

地域づくり協議会から一人(動員で)研修会に参加させるということだけでなく、やはりそれを持ち帰って地域に広げるのが役割だと思う。実態はなかなか難しい。

F委員:

いつも代表的な人が一人地域から参加して、終わってしまっている。

B委員:

参加した人が意識を高めて、地域をみつめなおし、例えば相談窓口になるなど(といったことが望ましい)。参加することが仕事になって終わってしまっている例もある。より実効性のある目標を。結局参加した人がどれだけ広めてくれるかが重要。

D委員:

地域づくり協議会によって、啓発したり勉強会をしたりというのを組み込むことが難しい地域もあると思う。地域づくり協議会の上層部の理解がないと、難しい。

A委員:

男女共同参画推進員については、地域づくり協議会長宛に、行政側から「それぞれの地域から推進員の推薦をしてほしい」と打診があった。その際に、何をしているのか、何をしてほしいのか良くわからないという意見もあり、とりあえず推薦だけするという意見もあった。やはり、地域の上層部らがバックアップしていかなければ進まないだろう。

D委員:

例えば(男女共同参画に関する研修等を)年間計画に入れてしまうなど、急に当て込むことが無いようにした方がいいだろう。

B委員:

やはり(男女共同参画推進については)、各地域の上層部の意識により地域差がある。

A委員:

例えば、文化祭で男女共同参画推進員らが作った啓発ポスターが貼られている。しかし、実際に何人の人が見ているだろうか。やはり、(研修等といった形で)ある程度人を集め、説明するまでしないと、進んでいかないだろう。

B委員:

地域づくり協議会はとても可能性があるが、男女共同参画の現状としては、固定観

念も残っており、決まった人しか集まらないということもある。

どんなに素晴らしい企画でも1回で終わるなど、数が少ないと意味がない。小さな企画でもいいので、たくさん散りばめることで多くの人に到達するだろう。そして、年間何人が研修を受けた、といった指標の図り方をしたらいいと思う。

事務局：

先ほどA委員からいただいた、「②地域の学習機会充実」の部分については、研修会の開催回数ではなく、参加人数を指標にしていくべきだろうか。

A委員：

どちらの結果も必要だと思う。実施した回数もないと。

一同：

そう思う。

～～～

F委員：

P2(1)配偶者等からの暴力の防止について、防止・予防の教育として、高岡市では中学校向けにデートDVに関する講座を1年に何校か(数年後には市内全校となるよう、)出前講座として開催されている。高岡市ではDVの予防・普及啓発をしている団体があり、そのメンバーらがボランティアで講師をしている。

E委員：

南砺市や砺波市ではそういった(DVの予防・普及啓発に関する)活動が少ないように思う。

学生、未婚者・既婚者など、対象によって内容も変わってくると思う。また、自身の住む地域の協議会や民生委員など、近い人だからこそ言いづらい部分もあると思う。そういった会がコンスタントに何度もあることで、ヘルプを言える機会が生まれたり、ネットワークが生まれたりするだろう。たくさん回数があることで何気なく行けるだろう。規模の大きさではなく、回数が大切だと思う。

C委員：

心配事相談などでも、地元の人には地元の会には出ない。知らない人に話をしたいもの。DVに関してもそうだろう。一番は、中学生や高校生の人に研修を受けることだと思う。

B委員：

デートDVは中学生や高校生に多い。意識なくやってしまう人もいる。こういう教育を中学生から進めていかなければいけない。男女共同参画含め、結局これらは人権問題にもつながる。人権教育は保育園や小学校段階から結構進んでいる地域もある

が、人権問題とDV問題が結び付かない、DV被害＝人権侵害と思わないパターンが多い。そういった活動や相談窓口についての広報・発信もとても大切だと思う。どこに相談していいかわからない、(近い)人に相談できない、自分が悪い、デートDVの場合は相手に嫌われたくない等といった人もいるだろう。市も、こういうところで相談できるということを、広報していてもいいと思う。

F委員：

P2(1)②人権尊重の意識づくりの推進の部分に、取り組み内容としてデートDVのことも記載がある。そのあたりについても、年代に沿って具体的な指標を立てられればと思う。

B委員：

南砺市が独自で窓口を持っていなくても、色々な窓口を紹介することは出来ると思う。必要な人に情報が届かない。

C委員：

私もある委員を担っているが、この電話をどこにつないだらいいかということが分からないことがよくある。相談窓口の一覧表をつくることも一つの施策かなと思う。

B委員：

そう思う。こういった部分を指標に落とし込めるよう、事務局でも考えていただきたい。

～～～

A委員：

P2(2)被害者からの相談及び自立を支える環境づくりの成果指標として、「女性・子ども相談室」へのDV相談件数を挙げているが、これは多い方がいい、少ない方がいいといった内容ではない。

事務局：

過去の審議会でもご指摘があったため、担当課にも確認した。この指標がふさわしくないのはその通りであるが、他にふさわしい指標もないとのことであった。

A委員：

成果指標は、本来は改善したかどうかを図るもの。例えば、相談がどうなったのか、実際に解決につながったのかどうかということが分かればいいだろう。確かに難しいだろう。

F委員：

この成果指標に関して、相談件数が段々減っているが、相談のしやすさや環境を整えると、本来は増える方が適切では。

～～～

A委員：

3.(1)①審議会・委員会等への女性参画の推進の成果指標として、「地域づくり協議会の会長・副会長の女性の数」とあるが、これは以前も言ったように、部会長としていただきたい。

また、この単位が人数となっているが、割合の方がいいのでは。全体数のうちどれだけの実績なのかが分かりづらい。次の「行政推進員の女性の数」についても同様、割合で表記した方がいいのではないか。

B委員：

人数と割合を併記したらどうか。特に「行政推進員の女性の数」については、今は354分の1ととても少ないので、割合にするとかなり低いだろう。

C委員：

地域の班長や区長に女性が出てこないのは問題だと思う。これは女が就く役ではないという意見もある。

D委員：

確かに、地域によっては、慣例で男性が就くものと決まっている地域もある。

B委員：

この際、慣例の見直しをしていかないと。いきなりというのは難しいから、そういった慣例の地域は、男女差を認める規約の見直しに努めていただけたら。

F委員：

日本が批准している女性差別撤廃条約では、慣例や地域の差別を解消していきましようと言っている。それを根拠に規約の見直しを、ということはいれられるだろう。

B委員：

しかしながら、女性の中にも、慣例を根拠に地域活動に出て行かない女性もいる。

F委員：

実際、家事育児を全部女性が担っている家庭環境だと、物理的に地域活動に出て行けない現状もある。女性が地域活動に出られる環境づくりも同時にしていかなければいけない。

B委員：

地域に、見直しなさいとまで強制はできないが、見直しにとりかかりましようと言っかけるくらいは出来ると思う。このプラン(第2次)の見直しでは、そういった具体的なきっかけも作っていかないと。「改めて見つめなおしてみませんか」と投げかけ、現状を見直

してもらうきっかけをつくることも重要。

～～～

A委員：

P3.(2)④ボランティア・NPO等との活動推進に関して、成果指標として「ボランティア活動に参加している市民の割合」とある。これは男女共同参画にどうかかわってくるのだろうか。削除してもいいのでは。

事務局：

気になる点ではあるが、プラン(第2次)の基本施策として「ボランティア・NPO等との活動推進」が掲げられており、そういった成果指標が挙げられているようだ。

F委員：

NPO等と連携して進めていくという趣旨だろうか。

B委員：

例えば男女別で成果指標を追っているならわかるが、ボランティア活動に関しては、女性が多いからどうだ、男性が多いからどうだという問題ではないと思う。社会参画という意味で女性が少ないことを意味するのであればわかるが、この成果指標ではそこまで追っていない。

今ボランティアの話もあったが、②高齢者の自立と介護者支援③障害者・ひとり親家庭・外国人等の自立支援も男女共同参画とは関係ないのではないかと。

②高齢者の自立と介護者支援については、高齢者の介護も女性の仕事となることが多いから、関係するかもしれないが。

A委員：

そう思う。②高齢者の自立と介護者支援はまだわかるが、③障害者・ひとり親家庭・外国人等の自立支援は逸れるのではないかと。

C委員：

例えば②高齢者の自立と介護者支援に関し、高齢者のデータをとるのであれば、高齢者サロン数より、男女別で参加者数があった方がいいのではないかと。

B委員：

確かに、高齢者サロンに女性が出ていく事で、お友達やネットワークもできるだろう。

D委員：

健康寿命にもつながる。

A委員：

高齢者サロンに高齢者が参加せず、家にいるということは、その高齢者の面倒を女性がみることが多い。高齢者サロンに高齢者が参加することで、家庭の負担が減ると考えると、指標としてはあってもいいのかなと思う。

F委員：

積極的に地域のネットワークをつかってほしいという思いもある。委員等の役に就いている人は地域活動に参加しているだろうが、一般の人で退職し、ずっと家にいる人は特に。

B委員：

そういう意味で、②高齢者の自立と介護者支援③障害者・ひとり親家庭・外国人等の自立支援は解釈によっては施策としてあってもいいだろうが、厳密に言うと、男女共同参画の言い方としては曖昧である。男女というのを明確にしてほしい。

～～～

H委員：

今回事務局から、比較参考資料として富山県や近隣市町村の成果指標の提示があった。事務局側で、比較して感じた部分はあったか。

事務局：

南砺市のプラン(第2次)は、企業に働きかけるための成果指標がないと感じた。例えば年次有給取得率や育児休暇取得率、女性の管理職比率などを加えた方がいいのではないかと思う。

B委員：

たしかに企業にとっての成果指標も必要だと思う。

事務局：

また、(4.男女の健康支援にも関わるが、)乳がん検診の受診率、子宮頸がんの受診率といった健康支援に関する成果指標も、さらに含めてもいいのかなと思った。

E委員：

健康支援について、4.(1)①妊娠・出産期の健康対策の推進にあるように、妊娠・出産期に関する健康支援はあるが、成長期や妊活の時期の健康支援、検診の受診は妊娠・出産に向けて大切なことである。そのあたりの成果指標が書かれていないが、入れた方がいいと思う。実際に、市では不妊治療の助成金も出しているようで、今年から不妊治療が保険適用となったこともあり、世の中も大きく動いている。

成長期から妊娠前の女性の健康に関する目標や数値が出せたら、分かりやすいと思う。

F委員：

成長期の性教育も大切だと思う。

E委員：

あえて書くことで、学んでいかなければいけないとわかるし、成果指標があることで取り組まなければいけない、数値として出していくということは大事だと思う。

～～～

A委員：

先ほど事務局から企業に向けた成果指標も必要ではないかというお話があったが、ジェンダーギャップの視点で日本が世界的に一番遅れているのは政治の部分。例えば、市議会議員の女性比率等の指標もあった方がいいのでは。

F委員：

とても大事なことだと思う。2018年に政治分野における男女共同参画推進法ができ、2021年にさらに改正され、今までは努力義務であったが、国の責務としてどんどんやっていこうという流れになった。このプラン(第2次)の見直しでは、そういった項目を入れた方がいいと思う。いきなり議員の数は増やせないで、普及・啓発といったことでもいいだろう。

～～～

B委員：

先ほどあった、女性の身体を含め、自分の身体を大事にするための項目が4.男女の健康支援の前段になると思う。それは入れたらいいと思う。

少し視点を変え、F委員からあった性教育という視点で、男女がお互いに尊重し合える、理解の促進や教育はどこかに含まれているか。デートDV等もつながってくると思う。

事務局：

性教育に関しては、4.(1)①妊娠・出産期の健康対策の推進の取り組み内容の「生理的な男女の違い、女性の身体的特徴に理解を深めるなど、正しい知識の啓発」につながるのではないか。

また、デートDVに関しては先ほどの P2(1)配偶者等からの暴力の防止の部分で出てきており、成果指標としてもそこに入れるべきでは。

B委員：

4.(1)①妊娠・出産期の健康対策ではなく、もっと前段で項目として含めてもいいのではないか。

F委員：

前段というのは、1.(2)男女共同参画に関する教育・学習の推進の部分か。取り組み内容として「幼児・学校・家庭の各教育関係職員及び親への男女共同参画に関する研修」とある。この「男女共同参画に関する」の部分に性教育も含めてはどうか。

C委員：

性教育は学校で教科書もあり、習っていることだから、データとして成果目標とするのは難しいのではないか。

A委員：

しかしながら、取り組み内容にそのような記載があるということは、中学校で習う以外に何か取り組みをしようと考えて記載したのではないだろうか。

C委員：

性教育に関しては、入れるのであれば別項目を作るか。しかしながら、あまり項目を増やさない方がいいと思う。

B委員：

意識づくりの中に教育的な観点のものが無い。意識的なものを高めるだけで、成果指標として落とし込めない。

A委員：

生理的な男女の違いは4.(1)の出産と子育ての部分とは離し、基本方針や基本施策の一番初めにあった方がいいのでは。男女の違いを正しく啓発しようということは一つの基本施策としてもいいと思う。

B委員：

4の男女の健康支援は絶対必要だが、それに深く関わる、子どもころからの意識付けが必要。しかしながら4にいれるのは違うと思う。1に、男女が互いに尊敬し合う意識の形成など、抽象的でもいいので、掲げるものがあつた方がすっきりすると思う。

～～～

F委員：

先ほどの3.(2)④ボランティア・NPO等との活動推進に関しては、富山県の基本施策や成果指標にも同様の内容がある。

南砺市で普及する人材を育てるという意味で人材育成をし、関係団体と協働して取り組んでいくという意味だと考えると、成果指標を外すのではなく、男女共同参画を普及する人材の育成等と、文言を加えるのでどうか。

	<p>渡邊会長：</p> <p>今回、色々意見が出たが、決定ということではなく、これらを踏まえてどこをどう変えるかをまた引き続き議論していけたらと思う。</p>
(4)副会長あいさつ	<p>今回は特に南砺市らしさや成果指標について自由闊達なご意見をいただき、次に進むための一乗になったと感じる。私は(7月頃に)富山県や近隣市町村の成果指標について事務局から提示があり、実際に計画をどのように立てているか、あらかじめHPでみることができた。同じような指標であったとしても、市や県により表現が違う。他市や国・県のものや南砺市のものを見比べてみることは今後の議論に向けた一乗だと思う。また近年の情勢と、プラン策定時の情勢を見比べてみることも一つだと思う。ジェンダーフリーという言葉もこの5年の間に出てきた言葉であり、この言葉を入れるか入れないかは分からないものの、時代背景が変わってきていると感じる。これを機会に、これまでの南砺市と他との比較について、皆さんにもしていただくことも今後の一乗ではないかと思う。</p>
(5)その他	<p>次回の開催は改めて案内</p>
(6)閉会	<p>午後9時10分</p>